

研修カリキュラム

科目(細目)	研修時間内 訊	具体的内容
	通学	
Ⅰ 職務の理解(6時間)		
Ⅰ-①多様なサービスの理解	3時間	介護保険サービス(居宅・施設)や介護保険外サービスについて視覚教材を使用して解説し、介護職員としての仕事や働く現場について、グループで話し合う。さらに、これからの研修の方向性について概要を把握させる。
Ⅰ-②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	○居宅・施設の多様な現場におけるそれぞれの仕事内容を理解させる。 ○居宅・施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ(視覚教材の活用、現場職員の体験談)をもつ。 ○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種との連携を理解させる。
Ⅱ 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)		
2-①人権と尊厳を支える介護	6時間	(1)人権と尊厳の保持 ○個人としての尊厳 ○アドボカシー ○エンパワメントの視点 ○「役割」の実感 ○尊厳のある暮らし ○利用者のプライバシーの保護 (2)ICF ○介護の分野におけるICF (3)QOL ○QOLの考え方 ○生活の質 (4)ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 (5)虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止 ○高齢者虐待防止法 ○高齢者の養護者支援 (6)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度を講義し、事例を通してどのようなケアが不適切な介護や虐待なのか、またどのような行為が利用者の人権侵害に相当するのか等を検討することで介護、支援のあり方を考えさせる。

02-②自立に向けた介護	3 時間	<p>(1) 自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立・自律支援 ○残存能力の活用 ○動機と欲求 ○意欲を高める支援 ○個別性・個別ケア ○重度化防止 <p>(2) 介護予防</p> <p>○介護予防の考え方について講義し、事例を通してどのような支援方法が自立支援や予防介護となるのか検討することで、自立支援に対する理解する。</p>
3 介護の基本(6 時間)		
3-①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	<p>(1) 介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問介護と施設介護サービスとの違い ○地域包括ケアの方向性 <p>(2) 介護の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○重度化防止・遅延化の視点 ○利用者主体の支援姿勢 ○自立した生活を支えるための援助 ○根拠のある介護 ○チームケアの重要性 ○事業所内のチーム ○多職種からなるチーム <p>(3) 介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異なる専門性を持つ多職種の理解 ○介護支援専門員 ○サービス提供責任者 ○看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ○チームケアにおける役割分担等を講義し、介護に関わる職種を挙げ、他職種との連携が必要な理由を話し合い各専門職との連携について理解させる。
3-②介護職の職業倫理	1.5 時間	<p>職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門職の倫理の意義 ○介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) ○介護職としての社会的責任 ○プライバシーの保護・尊重等を講義する。
3-③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 時間	<p>(1) 介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事故に結びつく要因を探り、対応する技術 ○リスクとハザード <p>(2) 事故予防、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リスクマネジメント

		<ul style="list-style-type: none"> ○分析の手法と視点 ○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） ○情報の共有 (3) 感染対策 ○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の・事故を未然に防ぐための方法や事故はなぜ起こるのか事故の要因を考え、危険予知、危険予測について理解させる。
3-④介護職の安全	1.5 時間	<p>介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護職の健康管理が介護の質に与える影響 ○ストレスマネジメント ○腰痛の予防に関する知識 ○手洗い・うがいの励行 ○手洗いの基本 ○感染症対策感染症対策を踏まえ、手袋・マスク・エプロン（ガウン）の着脱方法を演習する。
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）		
4-①介護保険制度	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント ○予防重視型システムの転換 ○地域包括支援センターの設置 ○地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み ○介護給付と種類 ○予防給付 ○要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担、指定介護サービス事業者の指定等を講義する。
4-②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○医行為と介護 ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割・連携 ○リハビリテーションの理念・医行為を行ってはいけない理由を考え、医行為と医行為でないものについて理解を深めさせる。
4-③障害者自立支援制度およびその他制度	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> (1) 障害者福祉制度の理念 ○障害の概念 ○ICF（国際生活機能分類） (2) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援制度等を講義する。

5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)		
5-①介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ○傾聴 ○共感の応答 <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語的コミュニケーションの特徴 <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の思いを把握する ○意欲低下の要因を考える ○利用者の感情に共感する ○家族の心理的理解 ○家族へのいたわりと励まし ○信頼関係の形成 ○自分の価値観で家族の意向を判断し、非難することがないようにする ○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの伝達演習を行い、特徴を理解し、介護におけるコミュニケーション技術の必要性について理解を深める。さらに、受容・共感・傾聴などのロールプレイを行うことで利用者の思いを知るコミュニケーションについて理解させる。
5-②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p>(1) 記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ○介護に関する記録の種類 ○個別援助計画書 ○ヒヤリハット報告書 ○5W1H <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○報告の留意点 ○連絡の留意点 ○相談の留意点 <p>(3) コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会議 ○情報共有の場 ○役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)を理解させる。

6 老化の理解 (6 時間)		
6-①老化に伴うこととからだの変化と日常生活	3 時間	<p>(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防御反応 (反射) の変化 ○ 喪失体験 <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体的機能の変化と日常生活への影響 ○ 咀嚼機能の低下 ○ 筋・骨・関節の変化 ○ 体温維持機能の変化 ○ 精神的機能の変化と日常生活への影響等を講義する。
6-②高齢者と健康	3 時間	<p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 骨折 ○ 筋力の低下と動き・姿勢の変化 ○ 関節痛 <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 循環器障害 (脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) の危険因子と対策 ○ 老年期うつ病症状 ○ 誤嚥性肺炎 ○ 症状の小さな変化に気づく視点 ○ 高齢者と感染症・小さな健康状態の変化にどのようにすれば気づけるか、またどのような観察視点が必要か検討し、日常生活上の留意点を理解させる。
7 認知症の理解 (6 時間)		
7-①認知症を取り巻く状況	1.5 時間	<p>認知症ケアの理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パーソン・センタード・ケア ○ 認知症ケアの視点 (できる事に着目) を理解させる。
7-②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5 時間	<p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症の定義 ○ 物忘れとの違い ○ 譫妄の症状 ○ 健康管理 (脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア) ○ 治療 ○ 薬物療法 ○ 認知症の治療に使用される薬等を講義する。
7-③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1.5 時間	<p>(1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症の中核症状 ○ 認知症の行動・心理症状 (BPSD) ○ 不適切なケア ○ 生活環境による改善 <p>(2) 認知症の利用者への対応</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○本人の気持ちを推察する ○プライドを傷つけない ○相手の世界にあわせる ○失敗しないような状況を作る ○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え ○身体を通したコミュニケーション ○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する○認知症の進行に合わせたケア・事例を通し、認知症の方の立場に立って、状況を考えるグループワークを行うことにより、認知症の方の思いに対する理解を深める。また中核症状から引き起こされるBPSDに対して理解を深める。さらに、事例を通し、BPSDへの対応方法についてグループワークを行って理解を深めさせる。
7-④家族への支援	1.5 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減(レスパイトケア)を講義して、理解させる。
8 障害の理解(3 時間)		
8-①障害の基礎的理解	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> (1) 障害の概念とICF ○ICFの分類と医学的分類 ○ICFの考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念・自分が障害を負った際どのように受け止め、どのような生活を送りたいのかグループワークを行い、障害のある方に対して関わる際の視点を理解させる。
8-②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援の基礎的知識	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> (1) 身体障害 ○視覚障害 ○聴覚、平衡障害 ○音声、言語、咀嚼障害 ○肢体不自由 ○内部障害 (2) 知的障害 ○知的障害 (3) 精神障害(高次脳機能障害、発達障害含む) ○統合失調症・気分障害・依存症などの精神疾患 ○高次脳機能障害 ○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害等を講義する。 (4) その他の心身の機能障害
8-③家族の心理、かかわり支援等の理解	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援 ○介護負担の軽減・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方についてグループワークを行って理解を深めさせる。

9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)		
9-①介護の基本的な考え方	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ○理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援) ○法的根拠に基づく介護等を講義する。
9-②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ○学習と記憶の基礎知識 ○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ○こころの持ち方が行動に与える影響 ○からだの状態がこころに与える影響等を講義する。
9-③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6時間	<ul style="list-style-type: none"> ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨・関節・筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉えさせる。 ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点・椅子からの立ち上がりでどのようにすると立ち上がれて、どのような状態であると、立ち上がれないのかを体験し、人体の動きに対して理解を深めさせる。さらに、ボディメカニクスを活用した立ち上がり時の介護を実施及び体験することで、人のからだの仕組みを活用し介護を行う必要性を理解させる。
9-④生活と家事	6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 ○生活歴 ○自立支援 ○予防的な対応 ○主体性・能動性を引き出す ○多様な生活習慣 ○価値観・介護職員の行う家事援助の機能についてグループワークを行う。また、視聴覚教材を用い、自立支援の家事援助についてグループワークを行って理解を深めさせる。
9-⑤快適な居住環境整備と介護	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用具貸与・自宅の見取り図を作り、住宅改修が必要な場所や福祉用具が必要なところを検討し、環境整備図を完成させ理解を深めさせる。
9-⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ○身支度 ○整容行動 ○洗面の意義・効果・爪きり及び耳かきの介助方法についてグルー

		<p>プで演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱の個別性について体験演習を行う。 ・片麻痺がある場合の衣服の着脱について演習を行う。
<p>9-⑦移動・移乗に関連した こころとからだのしくみと自 立に向けた介護</p>	<p>12 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識やさまざまな移動 ・移乗に関する用具とその活用方法 ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動 ・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法や移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ○利用者の自然な動きの活用 ○残存能力の活用・自立支援 ○重心・重力の働きの理解 ○ボディメカニクスの基本原理 ○移乗介助・杖歩行の介助について演習を行う。 ・片麻痺の方に対する車いすの移乗・移動介助について演習を行う。 ・ベッドからの立ち上がり移乗について、演習を行う。 ・車椅子の段差越え、障害物(溝)超えについて演習を行う。
<p>9-⑧食事に関連したこころ とからだのしくみと自立に向 けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備 ・食事に関連した用具・食器の活用方法および食事と社会参加の留意点と支援 ・食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○食事摂取の意味 ○食事のケアに対する介護者の意識 ○低栄養の弊害 ○脱水の弊害 ○食事と姿勢 ○咀嚼・嚥下のメカニズム ○空腹感 ○満腹感 ○好み ○食事の環境整備 ○食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ○口腔ケアの定義 ○誤嚥性肺炎の予防 ・食生活の個別性についてグループワークを行う。 ・食事時の基本姿勢について体験演習を行う。 ・食事及び水分摂取介助について演習を行う。 ・歯ブラシを使用した口腔ケアや義歯の扱いについて演習を行う。

<p>9-⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○羞恥心や遠慮への配慮 ○体調の確認 ○全身清拭 ○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ○陰部洗浄（臥床状態での方法） ○足浴・手浴・洗髪・手浴・足浴の介助について演習を行う。 ・清拭の介助について演習を行う。 ・浴槽への出入り及び立ち上がりについて演習を行う。
<p>9-⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○排泄とは ○身体面（生理面）での意味 ○心理面での意味 ○社会的な意味 ○プライド・羞恥心 ○プライバシーの確保 ○おむつは最後の手段・おむつ使用の弊害 ○排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連性 ○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ○便秘の予防・麻痺のある方への排泄の介助方法について演習を行う。 ・ポータブルトイレを使用した介助方法について演習を行う。 ・おむつ交換の介助について演習及び体験演習を行う。
<p>9-⑪睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○安眠のための介護の工夫 ○環境の整備 ○安楽な姿勢・褥瘡予防・睡眠環境についてグループワークを行い、個別性の理解を深めさせる。 ・介護用ベッドの基本操作とシーツの扱い方についてグループで演習を行う。 ・体位交換について演習を行う。 ・安楽な臥位姿勢について演習を行う。

<p>9-⑫死にゆく人に関するところからだのしくみと終末期介護</p>	<p>3 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とところからだのしくみ 生から死への過程 ・「死」に向き合うところの理解 苦痛の少ない死への支援 ○終末期ケアとは ○高齢者の死に至る過程 ○臨終が近づいたときの兆候と介護 ○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性・終末期を迎えた利用者に対しどのような態度、役割を担うべきかグループで検討し、ターミナルケア時の介護者の基本的態度について理解を深めさせる。
<p>9-⑬介護過程の基礎的理解</p>	<p>3 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ・介護過程を展開することで、よりよい介護につながる理由を検討し、介護過程の必要性について理解を深めさせる。
<p>9-⑭総合生活支援技術演習</p>	<p>9 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○事例の提示→ところからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 ・一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点を習得する。 ・高齢者、要介護2、認知症、片麻痺の事例をグループワークで検討し、個別援助計画を立案し、計画に基づく援助について理解を深めさせる。 ・事例を通じて、個々の利用者に応じた適切な支援技術は何かを検討し、援助方法についてロールプレイを行い、知識の活かし方について理解を深めさせる。
<p>10 振り返り(4 時間)</p>		
<p>振り返り</p>	<p>4 時間</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ○研修を通して学んだこと ○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)を振り返る。 2. 就業への備えと研修終了後における継続的な研修 <ul style="list-style-type: none"> ○継続的に学ぶべきこと ○研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT,OJT)を紹介する。